

A 212 回答形式による食物摂取状況における数量的意識に関する研究 II  
 山陽学園短大 大橋良子

目的 アンケートによる回答形式と秤量方法による食品摂取量を比較し、アンケート調査の回答から得た数量と実摂取量との誤差を追及し、回答形式をもとにして、実態に近い摂取量を推定したいという目的で調査を行なった。

方法 昭和55年・56年の11月中旬、対象：食物栄養専攻女子学生（19～20才）145名、前回と同じ方法による。

結果 昭和55年度調査の結果、蛋白質の摂取量において、両調査方法間に差異が認められた、56年調査の結果からは、同一方法により実施したにもかかわらず、1日1人当りの蛋白質摂取量は、アンケートの回答が $56.1 \pm 11.0$  g、秤量式が $54.3 \pm 13.8$  gと有意の差は認められなかった。その原因として考えられる蛋白源となる、魚、肉、大豆・大豆製品の摂取量の内訳を見るに、摂取率は、55年：56年が、魚38%：37%、肉37%：39%、大豆・大豆製品25%：24%であり、両年間に大きな差は見られなかった。表は、アンケートの回答による概量と、実摂取量を比較しながら、両数量に統計処理を行なったものである。

食品群別	(1) N	(2) 平均値 (点)	(3) 相関係数	(4) 回帰式
魚、肉、大豆・大豆製品	144	$76.0 \pm 36.3$ g ( 1.0 )	0.669 *	$Y = 1.005 X + 72.00$
卵	127	$62.7 \pm 36.2$ g ( 1.0 )	0.474 *	$Y = 0.4481 X + 50.35$
牛乳	99	$229.3 \pm 149.2$ g ( 1.5 )	0.381 *	$Y = 0.249 X + 120.1$
野菜	134	$239.1 \pm 107.8$ g ( 1.0 )	0.681 *	$Y = 0.392 X + 63.55$

注 (2)はアンケートによる概量平均 1点は80Kcal相当量 (3)\* $p < 0.01$  (4)Xはアンケート概量 Yは推定量